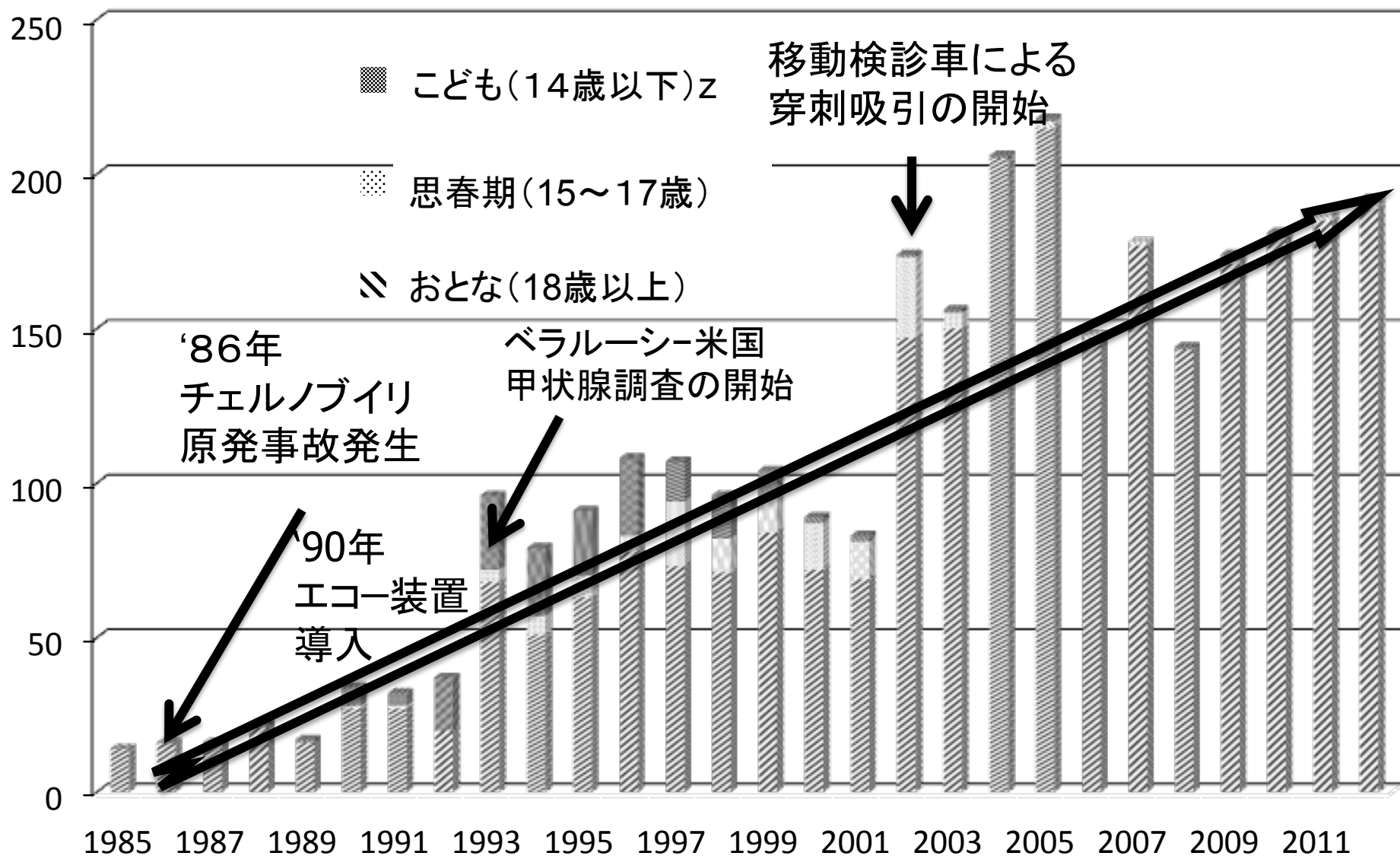
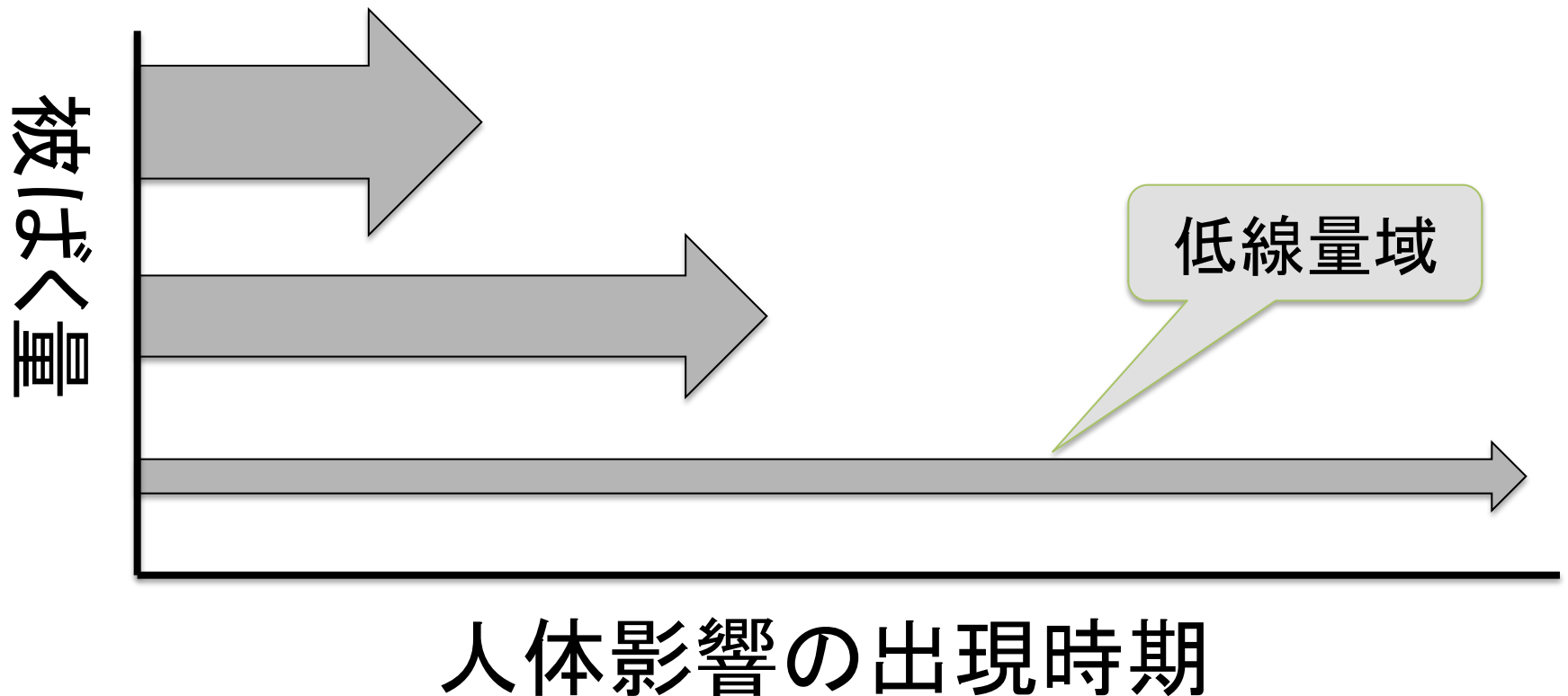


ベラルーシ共和国ブレスト州における甲状腺癌の推移



結果

放射能の人体影響は被ばく量により、
出現時期が異なる



広島、長崎に原爆が投下されてから今年で70年。
被ばく60年を経過した時点から、被ばく者の中に、
骨髓異形成症候群が確認されるようになった。

かつて前白血病状態と呼ばれた骨髓異形成症候群は
未だに根本的な治療法がなく、しばしば急性白血病に
移行する。



結論

まだ、人体に対する影響は甲状腺癌があるかもしれない？という程度
その他の疾病は、まだまだ長期的観察が必要

継続的な検診を続けることにより、早期発見、適切な対処を行うことが重要